

# 18会場で市政懇談会を開催

## —まちづくりの市民の声を—

南丹市のまちづくりの方針を市民の皆さんにお伝えし、市政にご理解をいただくとともに、市民参加のまちづくりを推進するため、7月23日から8月26日にかけて18会場へ市長がお伺いし「市政懇談会」を開催しました。今号では、懇談会で説明した市政の現状についてお伝えし、次号で意見交換の内容を紹介します。

(参加者 761人)

市政懇談会の進行は、南丹市の紹介ビデオ「南丹市の宝もの（森・里・街がきらめくふるさと）」を上映した後、市長が南丹市総合振興計画と行財政改革の推進についてスライドを使って説明し、その後、市政について参加者と意見交換を行いました。

### 南丹市総合振興計画について

新しい市のまちづくりの指針として、平成19年度に市総合振興計画を策定しました。この計画は、



▲平成20年5月に全戸配布した市総合振興計画【概要版】

南丹市を今後どのようなまちにしていくのか、将来像を掲げ、その将来像を達成するため、行政が行うこと、市民が行うこと、市民と行政が力を合わせて取り組むことなどの方向性を示し、時代の変化に対応して、魅力と活力にあふれたまちづくりに取り組むための指針とするものです。

計画の構成は、10年後の南丹市を展望し、将来像を示す『基本構想』、施策の方針を定め、前期・後期5年ずつを見据える『基本計画』、これらを達成するため、具体的に挙げる事業の推進内容を示す『実施計画』で構成しています。

(図1)

実施計画では、本年度から22年度までの3カ年を事業期間としています。実施計画に掲げた事業は

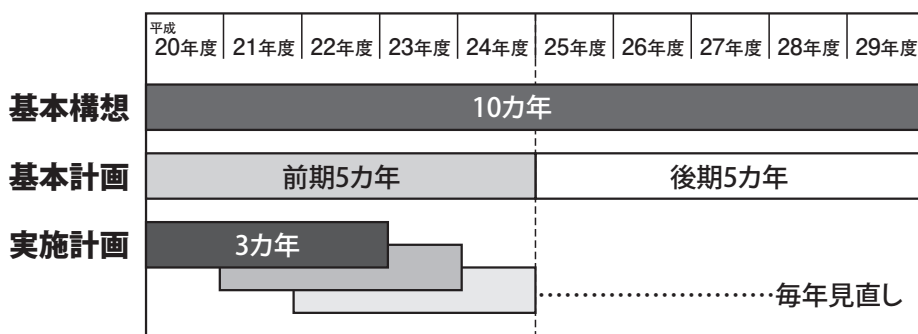
203事業で、一つ一つの事業について現状の課題から、どのように取り組むのか、目的や効果はどのようなことなのか、さらに、年度ごとに行う事業の概要や事業費などを示しています。

実施計画は、3カ年計画ですが、社会情勢の変化や動向に対応し、現実に合ったものとしていくため、毎年見直しを行い、改定していくこととしています。

そして、実施計画を着実に実行し、目指すまちの将来像を実現するためには、将来にわたる財政を見直し、行財政改革の視点をもって進めていくことが大変重要となってきます。

そのため、毎年の見直しにあたっては、実施事業に対するさまざまな角度からの評価を行うとともに

### ■計画と構成の期間 (図1)



に、刻々と変化する経済情勢や財政事情に即した予算化への検討が必要となります。

### 財政について

平成18年1月に南丹市が誕生しましたが、合併の本来の目的は行財政改革であり、行政の効率化や財政基盤の拡大によって、旧町で